

伊良部島・佐良浜の「オヨセ」について

上原孝三（宮古島市史編さん委員会委員）

1. はじめに

宮古の祭祀をどう記述するかは、その時代の精神と論理を抜きにしては考えにくいことであるのは自明のことである。そして、ある時代の研究の視座が、新たに別な問題意識を提起することもある。

宮古島市史第二巻祭祀編・『みやこの祭祀』（上）（中）（下）の3巻が刊行された。この「祭祀編」は当初、「重点地域調査」と「悉皆調査地域」の上・下2巻で刊行される予定であった。しかし、「悉皆調査」が加わり全3巻となったが、調査地点が多くなり祭祀に厚みが増したことにある。ある意味、現時点での宮古諸島の祭祀儀礼の集大成といえる。

その観点からは、大いに高く評価されてしかるべきで貴重である。これまで宮古にこのような書物が世に問われたことがあっただろうか。しかしながら、宮古の祭祀と歌謡の問題点をもう一度捉えないか、と考えるのである。

近年、伝統的な民俗祭祀や言語・社会慣習の存亡の危機が叫ばれてきた。当然そこには祭祀の中で演唱される神歌（歌謡）のことも含まれる。祭祀は大きく儀礼と歌謡から形成される。このような観点からも、かつての村落社会の祭祀を描き出そうとした。多くの民俗祭祀に謡われる歌謡は、われわれの遙かなる祖先が謡った古い時代の神歌などであった。直接口から耳へ声を聴き、メロディーや詞章を伝承してきた。厳密に言えば、祭祀歌謡は祭祀の主旨を表しているといえる。いま、宮古の各村落は、祭祀をどうしようかと思案中のところが多々ある。

池間・狩俣・砂川・多良間島のように、かつては多大な影響を与え続けた村落の伝承が途絶えた。そうかと思う一方、宮原地区のように比較的新しい村落では儀礼のみが行われている地域もある。歌謡はみえないが、それは歌謡が存在しないということではない。神歌が文字化されなかった、あるいは文字化されることを待ち望んでいる。しかし、文字化を拒否する歌謡がある。残念なことである。しかしながら存在する歌謡は、今後さらなる詳細な記述が望まれる。

2. 佐良浜の歌謡―「オヨセ」

宮古諸島の伊良部島佐良浜に伝わる歌謡の中に「オヨセ」とよばれるものがある。「オヨセ」は「オヨシ」とも称される。それは、神役カカリヤンマが占有する歌謡である。その歌謡がいつ・どこで謡われ、その内容はどのようなものなのか、実態はわかっていない。

2015年旧暦12月に佐良浜で「カーヌカンニガイ」（井戸の神願い）が行われ、サバウチイガー（鯖口井戸）でオヨセが謡われた。祭祀を観察していたが、海風が強く吹き、また歌い手との距離が遠く離れていたため何も聞き取れなかった。

調査から2年後、佐良浜のモトムラ（本村）の元神役カカランマにお会いすることができ、「ノート」をみせていただく機会に恵まれた。「ノート」は、10冊ほどあった。その「ノート」の中に「オヨセ」が何首か記述されていた。

そもそも「オヨセ」とは何なのか。宮古諸島の中でも祭祀歌謡として「オヨセ」という名称（呼称）は、佐良浜にしかない。

佐良浜は池間島の分村であるが、それでは池間に「オヨセ」という名の歌謡があるかということそれは存在しない。池間と佐良浜の分村である西原にも「オヨセ」という名の歌謡はない。そうすると、「オヨセ」は佐良浜独特のものとなるのだろうか。

時間は逆になるが、2011年池間島で沖縄県の歌謡調査をした。『沖縄の古謡』として刊行されたが、そのなかに「やぐみていだ」（13節）、「んまていだ」（4節）、「ないかに」（4節）、「ばかばう」（4節）、「ななむい」（5節）の5曲の歌がある。それらの歌は、詞章はもっと長いが、唱ってもらうだけでも大変貴重であった（他に「ういら」「いらうひゃーじい」がある）。これらの歌は、すべてカカランマが担当する。

佐良浜で「オヨセ」を聞いたときに、とっさに池間島の歌を思い出した。短い、若干似てないこともない、しかも、「ていんがなす」「くがにんま」「ななむい」「ないかに」とタイトルも似ている。詳細は両方の歌を聞かないとわからない。とはいえ両者とも、独自の歴史を持ち、琉球王国の近世、そして日本に巻き込まれる形で近・現代を迎えた。このような意味で、「オヨセ」は佐良浜の独特の体系性を有している。池間をルーツにしながら、佐良浜で独自に発達したものである。

3. 佐良浜の祭祀歌謡―「カンガカイヌアーク」

宮古各地には伝統的な祭祀が行われている村落もあれば、行っていない村落もある。祭祀が絶えた村落の一つに伊良部島の佐良浜がある。1766年に池間島から分村して佐良浜が成立した。佐良浜は行政上、池間添と前里添に二分される。池間島の池間と前里出身者を中心にして成立したのがそれぞれの集落である。池間添と前里添は隣接しているので、他所から来た者には、二つの集落の境界線がわからない。

祭祀を実施する上では、モトムラ（本村）とナカムラ（仲村）に分かれる。池間添と前里添に相当する。モトムラ（本村）とナカムラ（仲村）には祭祀を実施する神役がそれぞれいる。本村・仲村の各神役の名称・職能・人数などは概略すると下記の通りである。

【チィカサ】 チィカサ [tsikasa] (司)。フヂィカサ (大司)、フンマ (大母) ともいう。

通称はフンマである。村落祭祀を行う上での最高神女。各1人。

【カカランマ】 カラカ [kakara] から、懸から、懸かる者の意がある。カンカカラ (神懸から)、ともいう。通称は、カカラである。祭祀中に神懸かり、カンガカイヌアーク (神懸かりのアーク) を謡うこともある。各1人。

【ナカチィカサ】 ナカチィカサ [nakatsikasa] (中司)。ナカンマ (中母) ともいう。チィカサやカカラの補助を行う。通称は、ナカンマである。各1人。

これらの神役は、内容的にもまた役職の名称も池間と同様である。村落祭祀を実施する上で、上記の神役は重要な働きをする。佐良浜では年間約50を数える村落祭祀を担うのは、肉体的・精神的に負担を負う。佐良浜の神役たちは神事に従事・専念するために仕事（職場）を辞めることもある。

Sさんは数年にわたり本村のカカラを務めてきた。その際、祭祀に歌われるオヨシやアーク、祭祀を実施する月日を記録してきた。それは、ノート10冊の分量に及ぶ。佐良浜にはSさんだけではなく、代々の神役やSさんと同じ時期に神役をこなしてきた人も「ノート」をそれぞれ有している。この現象は佐良浜のみならず、宮古全域に見られる。また、沖縄諸島や八重山諸島にもみられる。

つまり、祭祀に関わる儀礼内容や歌謡を記録することは、いたるところにみられ、佐良浜特有の現象ではないのである。沖縄・宮古・八重山各地で、口頭伝承が文字として残された、ということである。

宮古では、書かれた神役のノートは本人が生存していても死後も家に残される。神事のことを記したノートには神霊が宿ると観念され「畏れ多く」家人も他人も手を触れたがらない。かといって、本人の死後燃やされることもなく、捨てることもできない。家人は一種厄介な問題を抱えることになる。だが、「ノート」はいつの間になくなってしまうのが一般的である。

宮古歌謡の研究者・新里幸昭氏は、「佐良浜ミヤコヅツ」（注①）で次のように述べている。

このニ村のミヤコヅツについては、2003年、2004年、2005年の観察と元前里添のフンマ仲村静子氏（1936年生）のお話に基づいて報告していく。ニガイの詞章は仲村氏が被調査者で、アークは『仲村静子ノート』を筆者が書き起こしたものである。

この記述からすると、新里氏は「元前里添のフンマ」の『仲村静子ノート』（個人所有）を基に「佐良浜ミヤコヅツ」を報告している。報告された内容は、『仲村静子ノート』そのままではないが、「元前里添のフンマ」のノートを公表した一例であることに相違はない。「元前里添のフンマ」の『仲村静子ノート』（個人所有）が学問研究の役に立っている事例である。

Sさんは神役カカラに選出された際、前任のカカラ（カカラアニ・懸から姉と称する）の家を訪ね、カカラアニの「ノート」を借用し、家に持ち帰り筆写したという。筆写後、カカラアニの家に行きカカラアニの指導で「オヨセ」などを謡い習った。

その方法は、カカラアニは自分のノートを見、新任のカカラSさんは自分のノートの文字を見て、謡い方を学んだ。家でも毎日のように個人で練習した、という。「オヨセ」の詞章が長く、なかなか覚えられないので、不安感、諦め、恨みの感情がSさんを支配した。毎日のように泣きながら謡い覚えたと言う。この話を聞いた時には、驚愕とともに一種の爽快感すら覚えた。Sさんと同時代に生きた人々は、価値観・考え方、感情のあり方において、現在の私達とは違うように思われる（注②）。佐良浜の歴代の神役たちは、皆そのような苦勞をしたであろう。

祭祀を記録した「ノート」の持つ意味は何か。個人所有の「ノート」は、もちろん本人自身のものであり、Sさん自身が筆写した「ノート」は彼女自身の役に立った。そこに記録する意義があった。だが、その内容は公的な様相を帯びている。言ってみれば、その村落の歴史の一端を担っている。また、人の一生の中で「神役従事期間」は、その人の特別な個人史の一面に外ならな

い。神役を引き受けることは、その村落に貢献することは確かな事実である。自分の為に記した「ノート」が、時代の経過とともに、結果として個人の思料を超えて貴重なそれとなった。

現在佐良浜は祭祀が途絶え、復活する見込みがないかもしれない。祭祀の担い手が登場しないのだ。とすれば、祭祀や祭祀歌謡や祭祀の日時を記した「ノート」は貴重なそれとなる。

例えば、文学の立場からすると、佐良浜のアーグは様々な書物に文字化・公表化されたようだが、「オヨセ」はこれまで文字資料として活字化されず、非公開化とされてきた。数人の研究者が、「オヨセ」をCDに録音しただけである。

そもそも「オヨセ」は佐良浜の祭祀歌謡の中核をなすものである。佐良浜の元島の池間島にも「オヨセ」に似た歌謡があるが、それは「オヨセ」とはいわない。「オヨセ」は佐良浜で独特に発達した歌謡であり、佐良浜の無形文化財と称すべきものである。「オヨセ」は佐良浜だけではなく、宮古の財産でもある。しかも沖縄の他の地域にはみられない貴重な歌なのである。それが「ノート」に文字として残されている。社会の中で共有する価値は十分にあるのである。

現在、「オヨセ」は約20首確認されている。まだあるものと思われる。早急に文字化しなければならない。

4. オヨセについて — 池間と佐良浜

池間ではカカランマが「カンガカイヌアーグ」即ち、オヨセをいう。佐良浜では「オヨセ」はカカランマがいう（謡う）。いずれも、カカランマの独唱である。

池間は、「やぐみていだ」「んまていだ」「ななむい」「ないかに」「ばかばう」「ういら」「いらうひゃーちい」「なっう`あ」「かーぬかんにがい」「びぬはしゅー」「うふやーま」など、11首のカンガカイヌアーグがある（注③）。『沖縄の古謡』（注④）で、収載されているのは、「やぐみていだ」「んまていだ」「ないかに」「ばかばう」「ななむい」の5曲であるが、すべて途中で謡い終わっている。

一方の佐良浜では、「ていんがなしい」「くがにんま」「ないかに」「ななむい」「んぬちいにー」「ういらにー」「なっヴあにー」「ひゃーじいぬつふあ」「ひゃーじいぬんま」「んまぬはうたき」「まうかん」「うんぬぬしい」など12首である。以下、池間島の「やぐみていだ」を佐良浜との比較のためみてみたい。

やぐみていだ（畏れ多い太陽）

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1, やぐみていだ よい（囃子。以下、*） | 畏れ多い太陽 |
| がなしいど よねー（囃子。以下、**） | 加那志だ |
| 2, うしいばい * | お添え栄え |
| やぐみぬど ** | 畏れ多い御方（大神）が |
| 3, きゅびゅーい * | 今日の日撰りの |
| ういんな ** | 上には |

4, かんびゅーい *	神日撰りの
ひかじいん **	日数に
5, やぐみていだ *	畏れ多い太陽を
なやぎゅーそ **	名揚げよう
6, うふやぐみゅー *	畏れ多い神を
たかびゅーそ **	崇べよう
7, ただぬぶん *	ただの盆
くりゃんま **	企まない (ものではない)
8, びちいうさぎ *	別のお供えでは
とぶんま **	取らない
9, んきやどうゆみゃー *	昔鳴響む者は
にだていー うちい **	根立てて置くよ
10, しいたてい うちい *	仕立てて置く
にがたみ **	願ったよね
11, まびとうだみぬ *	真人為の
にがたみ **	願ったよね
12, あたらだみ *	大切な為の
にがたみ **	願ったよね
13, くとうしい ちゅーぬ	今年中の
とうしいんな **	年には

池間島でユークムイ（夜籠り）に謡われる神歌である。アグシャー（歌者）が単独で、神に向かい祈願する。「やぐみていだ」「んまていだ」「ななむい」「ないかに」「ばかばう」「ういら」「いらうひゃーちい」「なつう` あ」「かーぬかんにがい」「びぬはしゅー」「うふやーま」の11曲すべての歌を演唱するのに約3時間を要するという。歌い手はアグシャーで、独唱法で謡われる。

以下、佐良浜の「むじいびゅーいぬ ささぎ」（麦の日撰りの願い）の「ていんがなしい」を紹介する。

ていんがなす（天加那志）（注⑤）

1（注⑥）

1, ていんがなす	よーい（以下、*で示す）	天加那志
ほやぐみ	よーね（以下、**で示す）	大神
2, うすいうや	*	被い親
でばんな	**	出番には
3, まびとむつ	*	真人持つ

ほやぐみ	＊＊	大神
4, あたらむつ	＊	大切な人を持つ
ほやぐみ	＊＊	大神
5, ばがうすい	＊	私が被う
まじるば	＊＊	まじるば<未詳>
6, ていんうすい	＊	天が被う
まじるば	＊＊	まじるば<未詳>
7, きばにやていどう	＊	貧乏人は
まらさん	＊＊	産まない
8, ゆからていどう	＊	富者とは
ゆとらん	＊＊	ゆとらん<未詳>
9, ゆぬかぎさ	＊	同じ美しさ
ばがむち	＊＊	私の分
10, ことしちゅーぬ	＊	今年の
かぎどす	＊＊	美しい年
2		
11, びぬていどうす	＊	亥の手の年
かぎどす	＊＊	美しい年
12, きよひよーい	＊	今日の日選り
ういんな	＊＊	上には
13, とういなうす	＊	取り直す
いびゅういん	＊＊	良い日選りに
14, さんにぐま	＊	サンニグマ<未詳>
まびとうが	＊＊	真人が
15, こましなでい	＊	コマシ撫で
あがらが	＊＊	上がるものが
16, なんから	＊	七日から
あがらし	＊＊	上げて
17, やうから	＊	八日から
あがらし	＊＊	上げて
18, あがりうる	＊	上げた
ひかずん	＊＊	日数に
19, とうずきゅうる	＊	届けた
いびゅういん	＊＊	良い日選りに
20, かんどつや	＊	神時は
いらびい	＊＊	選んで
21, いどつや	＊	良い時を

いらびい	**	選んで
22, ななむいが	*	七杜の
うどうぬん	**	御殿に
23, かんぱなが	*	神上の
かくいん	**	囲いに
24, うすいうや	*	被い親
でばんな	**	出番には
25, まびとうむつ	*	真人持つ
ほやぐみ	**	大神
26, あたらむつ	*	大切な人を持つ
ほやぐみ	**	大神
27, ばがうすい	*	私が被う
まじるば	**	まじるば<未詳>
28, ていんうすい	*	天が被う
まじるば	**	まじるば<未詳>
29, きばにやていどう	*	貧乏人は
まらさん	**	産まない
30, ゆからていどう	*	富者とは
ゆとらん	**	ゆとらん<未詳>
31, ゆぬかぎさ	*	同じ美しさ
ばがむち	**	私の分
32, ことしちゅーぬ	*	今年の
かぎどす	**	美しい年
3		
33, びぬていどうす	*	亥の手の年
かぎどす	**	美しい年
34, きよひよーい	*	今日の日選り
ういんな	**	上には
35, とういなうす	*	取り直す
いびゅういん	**	良い日選りに
36, さんにぐま	*	サンニグマ
まびとが	**	真人が
37, こましなでい	*	コマシ撫で
あがらが	**	上がるものが
38, なんかから	*	七日から
あがらし	**	上げて
39, やうかから	*	八日から

	あがらし	**	上げて
40,	あがりうる	*	上げた
	ひかずん	**	日数に
41,	とうずきゅうる	*	届けた
	いびゅういん	**	良い日選りに
42,	かんどつや	*	神時は
	いらびい	**	選んで
43,	いいどつや	*	良い時を
	いらびい	**	選んで
44,	ななむいが	*	七杜の
	うどうぬん	**	御殿に
45,	かんばなぬ	*	神上の
	かくいん	**	囲いに
4			
46,	うほぢいかさ	*	大司
	はなやし	**	上にして
47,	にがやたが	*	願う人達の
	ういがみ	**	上まで
48,	ゆ一むちゃん	*	世持ちに
	うかいきや	**	手伝いを求めるまで
49,	や一かずぬ	*	家数の
	うやまた	**	親母
50,	きゅ一かずぬ	*	戸数の
	うやまた	**	親母
51,	なみじゅるい	*	並び揃い
	がらまい	**	なされて
52,	ゆしじゅるい	*	寄せ揃い
	がらまい	**	なされて
53,	ただしんな	*	只では
	ゆらまい	**	寄り合わない
53,	びっしんな	*	別では
	とにやまん	**	<未詳>
54,	かんなやぎ	*	神名揚げ
	ゆらまい	**	寄り合い
55,	ういなやぎ	*	上名揚げ
	とにやまん	**	<未詳>

5 6, かぎぶんな	*	美しい盆を
なみゅーとうい	**	並べて
5 7, しんぶんな	*	千盆は
びしゅーとうい	**	据えて
5 8, かぎぶんが	*	美しい盆が
ういんな	**	上には
5 9, しんぶんが	*	千盆の
ういんな	**	上には
6 0, うしゅーびんな	*	お酒瓶は
はなやし	**	上にして
6 1, むむくゆーば	*	百個世は
はなつき	**	花点け
6 2, うじゃきはな	*	お酒花
はなやし	**	上にして
6 3, むらぎはな	*	持ち上げ花
はなやし	**	上にして
6 4, かんうらす	*	神降ろす
うほゆーば	**	大世は
6 5, ていだうらす	*	太陽が降ろす
うほゆーば	**	大世は
6 6, ぶんかずん	*	盆数に
むやがり	**	盛り上げて
6 7, だいかずん	*	台数に
むやがり	**	盛り上げて
6 8, かんたから	*	神宝
くぱんな	**	塩は
6 9, ういたから	*	上宝
くぱんな	**	塩は
7 0, ゆぬかぎさ	*	同じ美しさ
なみゅーとい	**	並べて
7 1, いんぬゆうぬ	*	海の世の
うほゆば	**	大世は
7 2, いすぬゆうぬ	*	磯の世の
うほゆば	**	大世は
7 3, ぶんかずん	*	盆数に
むやがり	**	盛り上げ
7 4, だいかずん	*	台数に

	むやがり	**	盛り上げ
6			
	75, すまから一ず	*	島カラーズ (島役人)
	かぎぶん	**	美しい盆
	76, むらから一ず	*	村カラーズ (村役人)
	かぎぶん	**	美しい盆
	77, や一かずぬ	*	家数の
	かぎぶん	**	美しい盆
	78, きゅ一かずぬ	*	戸数の
	かぎぶん	**	美しい盆
	79, うほうにが	*	大船が
	かぎぶん	**	美しい盆
	80, ふにがまが	*	小舟が
	かぎぶん	**	美しい盆
	81, ゆぬかぎさ	*	同じ美しさ
	なみゅーとい	**	並べて
	82, うかうまーや	*	線香の束は
	ていんうき	**	手に受け
	83, したういが	*	下上が
	うやだし	**	親に出し
	84, ゆんふそく	*	読み不足
	ていやにゃん	**	とはない
	85, すずふそく	*	筋不足
	ていやにゃん	**	とはない
	86, うかうじゃーん	*	線香さえ
	あがらし	**	上げて
7			
	87, うかうーや	*	線香は
	ちいきゅうとい	**	点けていて
	88, あかるびいや	*	明るい火は
	ちいきゅうとい	**	点けていて
	89, あかるびいが	*	明るい火は
	ういから	**	上から
	90, むむはいどう	*	百ハイも
	あがらし	**	上げて
	91, しんはいど	*	千ハイも
	あがらし	**	上げて

9 2, あがりうる	*	上がっている
ぶんから	**	分から
9 3, とうずきゅうる	*	届いている
ぶんから	**	分から
9 4, きゅーにがい	*	今日願い
うさぎや	**	捧げは
9 5, ただにがい	*	ただの願い
とやらん	**	ではない
9 6, べつうさぎい	*	別の捧げ
とやらん	**	ではない
8		
9 7, むかしゅーぬ	*	昔世の
はだから	**	時代から
9 8, まいさずが	*	前サズ（役職名）の
はだから	**	頃から
9 9, とうしかずん	*	年数に
うさぎゅーい	**	捧げた
1 0 0, はだかずん	*	時代ごとに
うさぎゅーい	**	捧げた
1 0 1, まびとうだみ	*	真人達が
かぎぶん	**	美しい盆
1 0 2, あたらだみ	*	大切な人達の
かぎぶん	**	美しい盆
1 0 3, したういん	*	下上に
あがらし	**	上げて
1 0 4, あがりうる	*	上がっている
ぶんから	**	分から
1 0 5, とうずきゅうる	*	届いている
ぶんから	**	分から
9		
1 0 6, まびとたが	*	真人達が
ういうば	**	上をば
1 0 7, あたらたが	*	大切な人達の
ういうば	**	上をば
1 0 8, あさどむと	*	父殿を
むとやし	**	元にして
1 0 9, なすじゃうず	*	産し上手

にびとり	**	根部取り
1 1 0, ずばなたが	*	若盛り達が
ういがみ	**	上まで
1 1 1, あうぱたが	*	青肌の
ういがみ	**	上まで
1 1 2, つっさぱとん	*	一人も
まらさん	**	漏らさない
1 1 3, がんじゅうさどう	*	頑丈さを
たすきみゅう	**	助けてみよう
1 1 4, どゆじゅうさどう	*	胴強さも
たすきみゅう	**	助けてみよう
1 0		
1 1 5, だやずゆうが	*	畑の世が
ういうば	**	生えているので
1 1 6, んすずゆうが	*	み筋世が
ういゆば	**	生えているので
1 1 7, むむたていぬ	*	百立ての
うほゆば	**	大世を
1 1 8, かずかずぬ	*	数々の
うほゆば	**	大世を
1 1 9, おほやまん	*	大山に
たらしゅうとい	**	垂らしていて
1 2 0, あうやまん	*	青山に
たらしゅうとい	**	垂らしていて
1 2 1, したむすん	*	下虫も
わらさん	**	いない
1 2 2, あかむすん	*	赤虫も
わらさん	**	いない
1 2 3, やーかずぬ	*	家数の
ういんかいや	**	上には
1 2 4, きゅうかずぬ	*	戸数の
ういんかいや	**	上には
1 2 5, とうていはだ	*	十年分
ゆしみいだ	**	寄せてみろ
1 2 6, あまりはだ	*	余る分
ゆしみいだ	**	寄せてみろ

1 1

1 2 7, たびかりゅうが	*	旅嘉例が
ういゆば	**	上には
1 2 8, いちゆかりゅうが	*	糸嘉例が
ういゆば	**	上には
1 2 9, かりゆしいばま	*	嘉例吉浜
ういから	**	上から
1 3 0, うやきばま	*	富貴浜
ういから	**	上から
1 3 1, うほにが	*	大船が
いじゅうばん	**	出ても
1 3 2, ふにがまが	*	小舟が
いじゅうばん	**	出ても
1 3 3, しいましいまう	*	島々を
かゆうばん	**	通っても
1 3 4, くにくにゆ	*	国々を
かゆうばん	**	通っても
1 3 5, かいまたん	*	狩俣に
うらまい	**	おられる
1 3 6, まんちいぬす	*	真道主
ほやぐみ	**	大神
1 3 7, あかちゆなや	*	赤強綱は
はゆうとい	**	張っていて
1 3 8, かどういなーや	*	門縄は
はゆうとい	**	張っていて
1 3 9, あかちゆなぬ	*	赤強綱の
ういから	**	上から
1 4 0, やさとうやーゆ	*	家里家を
かゆにゃん	**	通った
1 4 1, とうないやーゆ	*	隣りの家を
かゆにゃん	**	通った
1 4 2, あすんぴーぬ	*	遊ぶ部の
かぎたび	**	美しい旅
1 4 3, どうーはいぬ	*	自分栄えの
かぎたび	**	美しい旅
1 2		
1 4 4, りゅうきゅうんちい	*	琉球道
ういうば	**	上をば

1 4 5, うやきんつ	*	富貴道
ういうば	**	上をば
1 4 6, かりゆしいばま	*	嘉例吉浜
ういから	**	上から
1 4 7, うやきばま	*	富貴浜
ういから	**	上から
1 4 8, うほにが	*	大船が
いじゅうばん	**	出ても
1 4 9, ふにがまが	*	小舟が
いじゅうばん	**	出ても
1 5 0, いとうちいぬ	*	港口の
ほやぐみ	**	大神
1 5 1, かどうつや	*	港の門は
あきゅうとい	**	明けていて
1 5 2, いんぬゆーぬ	*	海の世の
うほゆば	**	大世を
1 5 3, いしいぬゆーぬ	*	磯の世の
うほゆば	**	大世を
1 5 4, あがたうい	*	むこうにいる
うほゆば	**	大世を
1 5 5, とうさうい	*	遠さいる
うほゆば	**	大世を
1 5 6, あっじゃばら	*	足下原
ゆしゅうとうい	**	寄せていて
1 5 7, すなすばら	*	砂洲原
がにゅうとうい	**	追い込んで
1 5 8, あうすうい	*	青潮にいる
うほゆば	**	大世を
1 5 9, ふかさうい	*	深さいる
うほゆば	**	大世を
1 6 0, あどうだつん	*	踵立に
がにゅうとうい	**	追い込んで
1 6 1, ひさだつん	*	膝立に
がにゅうとうい	**	追い込んで
1 6 2, さんとつが	*	三時の
どつがみ	**	時まで
1 6 3, うやきどうつ	*	富貴時

どつがみ	**	時まで
1 6 4, ながばたどう	*	長旗ぞ
あがらし	**	上げて
1 6 5, しんばたどう	*	千旗ぞ
あがらし	**	上げて
1 6 6, ながばたぬ	*	長旗の
したから	**	下から
1 6 7, しんばたぬ	*	千旗の
したから	**	下から
1 6 8, かりゆしいばま	*	嘉例吉浜
ういんかいや	**	上には
1 6 9, うやきばま	*	富貴浜
ういんかいや	**	上には
1 7 0, みはなぶた	*	顔が微笑んで
がりゆとい	**	してみよう
1 7 1, うむていぶた	*	表が微笑んで
がりゆとい	**	してみよう
1 7 2, さうがたみ	*	竿のため
うほゆば	**	大世を
1 7 3, やくがたみ	*	役で担う
うほゆば	**	大世を
1 7 4, やーかずぬ	*	家数の
ういんかいや	**	上には
1 7 5, きゅうかずぬ	*	戸数の
ういんかいや	**	上には
1 7 6, とうていはだ	*	十年分
ゆしみーだ	**	寄せてみろ
1 7 7, あまりはだ	*	余る分
ゆしみーだ	**	寄せてみろ
1 3		
1 7 8, きゅうにがい	*	今日の願い
うさぎや	**	捧げは
1 7 9, むむにがい	*	百願いに
ダキアリ	**	当たる
1 8 0, しんにがい	*	千願いに
だきあり	**	当たる
1 8 1, したういん	*	下上に

	あがらし	**	上げて
182,	ていんぬじゃーん	*	天の座に
	あがらし	**	上げて
183,	んまうどうぬ	*	母御殿
	あがらし	**	上げて
184,	ななむいが	*	七杜の
	うどうぬん	**	御殿に
185,	かんばなぬ	*	神上が
	うどうぬん	**	御殿に
186,	ゆぬかぎさ	*	同じ清らさ
	あがらし	**	上げて
187,	ういらにーん	*	ウイラ根に
	あがらし	**	上げて
188,	うほゆにーん	*	大世根に
	あがらし	**	上げて
189,	なんかゆい	*	七日祝い
	むらでいす	**	祝おう
190,	やうかゆい	*	八日祝い
	むらでいす	**	祝おう
191,	あやぐすい	*	綾語添うて
	あがらし	**	上げて
192,	かぎさすい	*	美しさ添うて
	あがらし	**	上げて
193,	ばがゆしぬ	*	我が寄せの
	およしい	**	オヨシ
194,	かんゆしぬ	*	神寄せの
	およしい	**	オヨシ
195,	おほちいかさん	*	大司に
	なみたい	**	並べた
196,	にがやんどう	*	願う人達に
	なみたい	**	並べた
197,	ゆーむちゃん	*	世持ちに
	なみたい	**	並べた
198,	するまうる	*	スルミおる
	んみていん	**	全天
199,	ちゃうぬまま	*	神帳のまま
	なみたい	**	並べた

200, あやぬまま	*	綾のまま
なみたい	**	並べた

だいぶ長い歌である。この「ていんがなしい」は、モトムラ（本村）集落の「麦の日撰り」の時、神の前でカカランマが連続して謡う「オヨセ」12編のうち、最初に謡われるものである。歌の詞章は主に、最高神ティンガナシィがカカランマの口を通して、「麦日撰り願い」の諸儀礼を歌で謡って、神女たちにその実施を求めるとともに、その返礼に村人にはその念願とするユー（富・幸・福）の授与を約束する内容である。ユーは天・船で運ばれてくる。今年の収穫を神に感謝し、来年の豊作も祈願する。

池間島の「やぐみていだ」などの神歌を謡い終えるのに、「約3時間」時間を要するのであれば、上記の歌のような長さを有していた、と思われる。

「ていんがなしい」は、例えば、「マビトウダミニガイ」や「ユークイヌオヨセ」などにもあるが、それぞれ節数が異なる。「ムズィヌビィーイヌ ササギ」の「ていんがなしい」は200節、「マビトウダミニガイ」のそれは179節、「ユークイヌオヨセ」のそれは、199節である。同じ「ていんがなしい」なのに、それぞれ異なるのである。

5, むすびに一池間・佐良浜・西原の歌

池間島から発して対岸の伊良部島佐良浜に「オヨセ」がある。池間島から佐良浜へ、これが「オヨセ」の流れだ。いや、ベクトルは伊良部島・佐良浜から池間島だった。池間島に「オヨセ」はないか。だが、池間島では「オヨセ」を聴くことはなかった。

しかしながら、「オヨセ」に似た歌があることは判明した。恐らく、池間島のNさんが謡ってくれた、「やぐみていだ」「んまていだ」「ないかに」「ばかばう」「ななむい」の5曲がそれだろうと察しがついた。曲調やメロディーが何となく似ているからである。

つまり、池間島の原曲から伊良部島の「オヨセ」ができた、という事である。佐良浜の女性は、池間島の祭祀に多く関わった、という伝承がある。祭祀の為には時々池間島に宿泊しなければならないことも間々あった。従って、「オヨセ」の原曲に触れる機会があった、という事である。それを佐良浜でも実習した。「オヨセ」の成立の過程であろう。これから証明しなければならないことは多々ある。しかし、音曲の流れは池間島から佐良浜へは間違っていないだろう。

では、池間島と佐良浜から分村した西原はどうであろうか。西原の村建ては1874（明治7）年で、今回分村150周年を迎える。池間・佐良浜・西原は、「池間民族」と称する。残念ながら、西原には「オヨセ」はない。なぜだろうか。西原の人々は、分村当時、まず食うこと生活することが先決問題としてあった。また、多くの次男・三男が西原に多く配属されたことも、ひとつの問題だった。

その他のことも相俟って、西原にはムトゥ（元）が存在しない。池間と同じような祭祀集団を造ったが、まったく同じではなかった。歌謡も然りである。伝統的な池間島の形式をまねたのである。

言ってみれば、池間・佐良浜・西原は似ているが同じではない。似て非なるものである。池間・佐良浜・西原とそれぞれが特色ある地域を作り出した。根底は同じであるが、異なる色になってしまった。

さて、佐良浜の「オヨセ」にはまだまだ解決されねばならない問題が内在している。歌謡の数など早急に解決しなければならない。

注

注① 新里幸昭『宮古歌謡の研究 続1』南島歌謡研究所 2012年。

注② 佐渡山安公さんと上原は、2020年3月にSさんの家にお邪魔し、話を伺うと同時に「オヨセ」を何首か聴かせていただいた。「オヨセ」は「オヨシ」とも発音する。「オヨセ」の語義は未詳。

注③ 濱川真砂 「沖縄宮古池間島の歌謡」『琉球列島における音声の収集と研究Ⅱ』（沖縄言語研究センター研究報告2）に収載。沖縄言語研究センター 1993年。

注④ 『沖縄の古謡』（宮古諸島編 上巻・下巻公益財団法人沖縄県文化振興会 平成24（2010）年）CDで歌詞・解説つき。なお、引用に際し、口語訳を改めた部分がある。

注⑤ 平成5年のSさんの「ノート」によれば、「4月28日」は「ムズビュウイ ウサギニガイ」（麦日撰りの願い）である。「ていんがなしい」「くがにんま」「ないかに」「ななむい」「んぬちいにー」「ういらにー」「なっうゝあにー」「ひゃーじいぬっふあ」「ひゃーじいぬんま」「んまぬはうたき」「まうかん」の11曲が謡われる。

濱川の論文では、「4月」に「ムヂィウハチィ」（麦のお初）で「やぐみていだ」「んまていだ」「ななむい」「ういら」「いらうひゃーぢい」「まっうゝかむゝ」の6曲が謡われる。

同じ様な祭祀と思われるが、謡われる曲数が異なる。佐良浜と池間の歌のタイトル・内容、そしてどの祭祀で謡われるかは今後解決すべき課題だろう。

注⑥ 1～13までの番号は、インフォマントが付したものである。一連番号は、引用者が付した。

『宮古島市史資料 8 佐良浜の祭祀歌謡—モトムラのオヨシを中心に—』（宮古島市教育委員会 宮古島市史編さん委員会 2023年）では、一連番号のみとした。

佐良浜では、「オヨセ」を内容の上から1～12とか、1～13に分ける傾向がある。なお、池間での「やぐみていだ」演唱は、佐良浜での1までの内容（13節）を謡い終わったのであろう。

「付記」

本稿は、「宮古島の神と森を考える会」の「第14回・伝承文化 シンポジウム」（2022年9月25日）で発表した「伊良部島・佐良浜のオヨセについて」が基本となっている。

佐渡山氏からは、佐良浜の資料を多くいただいた。また、「宮古島市史編さん委員会」からも資料をいただいた。両者に感謝申し上げます。